

米財政金融総動員『国策に売りなし』

コロナショック「戦時下の大統領」トランプ支持上昇

株式会社ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2020/4/1

相場回復にはむろん新型コロナウイルス感染「収束」を待つしかないが、対 GDP 比 10% 2 兆ドルの米経済対策や FRB 無制限 QE（量的緩和）等合わせ 6 兆円規模の「史上最大の作戦」に、「FRB に逆らうな」、「国策に売りなし」の相場格言は活きている。何より「戦時下の大統領」トランプ氏の支持率が上昇に転じ、ヘッジファンド「パーシング・スクエア」率いるアクティビス（モノ言う株主）アックマン氏が米経済「回復への賭け」として 25 億ドル（約 2800 億円）を米国株に投資した。

「弱気相場」只中の反発は売られ過ぎの修正

「米国株『弱気相場』における反発は飽くまで売られ過ぎの修正であり、売り方の買い戻しによるリバウンド相場との位置づけであり、長期投資家の買いは未だ期待できない」（米バロンズ誌 3 月 28 日号『Bear-Market Rally Doesn't Signal Quick Revival for Stocks（弱気相場の反発は V 字回復に非ず）』）。

米ダウ平均は 3 月 24-26 日の 3 日間で 21% も反発し、大恐慌から抜け出した 1931 年 10 月以来の最大の上げ幅を記録し、3 月 19 日の安値から 20% 超回復し、一部の定義上「強気相場」へ切り返したように見える。

だが、2 月 12 日の史上最高値から未だ 24% 沈んだ水準にあり、米国株「弱気相場」における反発は、飽くまで売られ過ぎの修正であり、売り方の買い戻しによるリバウンド相場との位置づけだというのだ。

確かに、08 年のリーマンショックより今回のコロナショックの経済ショックの方が大きい。リーマンショックは金融危機だったが、コロナショックは公衆衛生危機であり、感染「封じ込め」の封鎖・隔離「非薬事介入」政策による「経済ショック」を孕むからだ。

2 兆ドル（米 GDP 比 10%）の景気刺激策と FRB 無制限 QE（量的緩和）を合わせた 6 兆ドル「史上最大の作戦」をもってしても必要な支出を支援し切れないかもしれない。

むろん、「コロナショック」だけに新型コロナウイルス感染拡大の「収束」及び封鎖・隔離「非薬事介入」政策解除が、相場底入れの前提となる。ところが、菌に衣着せぬ物言いで信頼感が厚いファウチ国立アレルギー感染症研究所所長が 29 日 CNN テレビで「米国で数百万人が新型コロナウイルスに感染し、10-20 万人が死亡する可能性がある」と警告を発した。

ファウチ氏は感染症の専門家で、米政権のコロナ

ウイルス対策本部の主要メンバーとしてトランプ大統領らに対策を指南、「感染拡大が続く NY 州やニューオーリンズ（ルイジアナ州）に加え、他地域で深刻な問題を抱える」と感染のさらなる増加に懸念を示した。

だが、オイルショックや IT バブル崩壊、リーマンショックと人類は何度も危機を乗り越えてきた。むろん、「100 年に一度」の公衆衛生危機だけに予断は許されない。だが米投資家ウォーレン・バフェット氏は金融危機の 2008 年、株主への手紙に「悲観は友、陶醉は敵」と書いた。

リスクを過小にみるユーフォリア（陶醉）から、過剰におびえる「悲観」へ一気に振り子が向かったのがコロナショックだが、それは新たな投資機会を生むというのだ。

むろん、新型コロナの感染はどこかで収束へ向かい、非常事態、封鎖・隔離「非薬介入」政策が解除されれば、企業も活力を取り戻す。コロナショック後の世界を見据えた株式投資の買い場がいずれ訪れるというのだ。

しかも、対 GDP 比 10% の 2 兆ドルの米経済対策に FRB 無制限 QE（量的緩和）等「史上最大の作戦」には依然として、「FRB に逆らうな」、「国策に売りなし」の相場格言が活きている。その証左が、「戦時下の大統領」を自称し危機対応のアピールが奏功するトランプ大統領の支持率上昇だ。

米政治専門サイト「リアル・クリア・ポリティクス」によると、弾劾裁判の無罪評決を経て上昇していたトランプ氏の平均支持率は、米国での感染が広がった 2 月下旬以降下落、「ウイルスの影響を過小評価した」との批判を浴びた。

だが、13 日連続で自ら記者会見に臨み、その後は危機対応を前面に出し、「戦時下の大統領」とのアピールが奏功し、ギャラップ社 24 日発表の調査では新型コロナウイルスへの対応を 60% が「評価する」と回答、世論調査の平均値は 25 日、46.5%（不支持率は 49.7%）と 1 ヶ月前の水準を取り戻した。

「国策に売りなし」地で行くアックマンの死闘

「ビル・アックマン氏は米経済『回復への賭け』として 25 億ドル（約 2800 億円）を株式に投資した。ポートフォリオに保有する企業で複数の銘柄を買い増す他スターバックスなどに再び投資した」（ブルームバーグ 3 月 24 日『Bill Ackman Makes \$2.5 Billion ‘Recovery Bet’ Amid Coronavirus Tumble（物言う投資家アックマン氏、新型コロナからの米回復に 2800 億円の賭け）』）。

「国策に売りなし」、「FRBに逆らうな」の相場格言を地で行くのがヘッジファンド「パーシング・スクエア」率いるアクティビス（モノ言う株主）アックマン氏である。

同氏率いるヘッジファンド「パーシング・スクエア」は新型コロナウイルス感染拡大の影響からポートフォリオを守るべくクレジット市場の空売りでヘッジしていたが、このヘッジを外し得られた資金で過去 10-12 日の間にバークシャー・ハサウェイ等に再投資したというのだ。

連邦政府による 30 日間の強制的な封鎖措置を呼び掛けていたアックマン氏は全米でウイルス検査実施を増やすよう促す等、「トランプ政権が正しい方向に向かっているとの確信を私は過去 1 週間に深めた」という。

アックマン氏はブルームバーグ TV のインタビューで、「これまでで最も強気の行動だろう。ロングばかりでショートはない。米国に賭けている」と語っている。「100 年に一度」の公衆衛生危機「コロナショック」との死闘である。

むしろ、「自らは正しいことをしている」という確固たる信念があるから、アックマン氏は動揺した素振りを見せない。その思いは世間にほとんど届いていないが、アックマン氏は自らの投資を「世直し」と位置づけ、他人の声に耳を貸さない独善的かつ「英雄主義」を漂わせ、100 年前のような株主が強かった時代への回帰を目指す。

1995 年、20 代の若さでハーバードの同級生とヘッジファンド「パーシング・スクエア」を設立したアックマン氏の自己への確固たる自信から来る強烈な個性は、その生い立ちから彷彿とされる。

生まれは、クリントン元大統領夫妻の家があるこ

とでも知られる NY 州のチャパクア。緑の多い郊外の高級住宅地。父親は不動産業を営み、生活は豊かだった。「こんな誰もがうらやむ環境で育ったからか、『幼いころから自信家で、何をやっても成功できる』との確信があった」と後にアックマン氏は語っている（『リスク・テイカー』川上穰著）ー

勉学も秀でたものがあり、大学は米東部の名門ハーバード大学に進んだ。その前年には姉が同じハーバードに進学しており姉弟そろって成績は優秀だった。

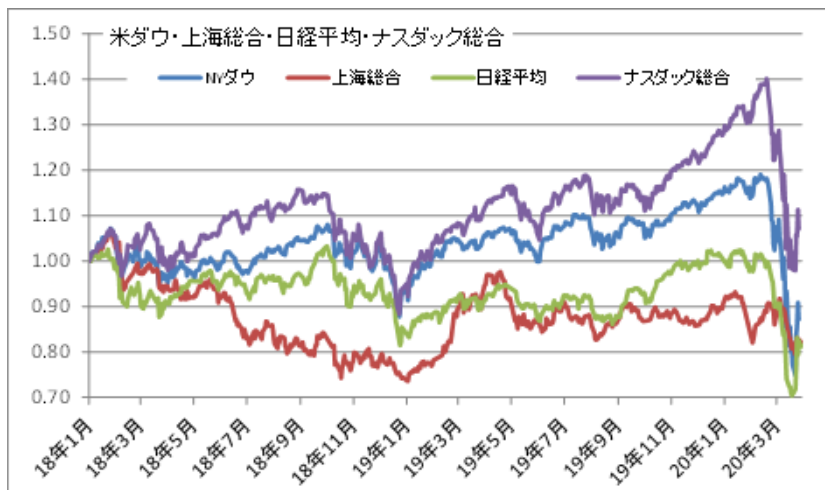
父親にビジネスを手伝うように言われ、卒業後は不動産業に進んだが、偶然にもバリュー投資との出会いを果たす。「バリュー投資の古典である『賢明なる投資家』を読み、十分に理解できた訳ではなかったが、投資の世界はとてつもなく奥が深く、成功すれば得られるものが大きいことはわかり、ハーバード・ビジネススクールに進学、のめり込むように投資の本を読み始めた」（同著）という。

「致誉褒褒の渦巻くアックマン氏には、心の底から尊敬している投資家がいる。オマハの賢人ウォーレン・バフェットその人だ」（同著）ー

実に、60 年にわたる運用実績があり、レバレッジに頼ることなく、平均で 20% を超える投資収益をたたき出してきた。ジョージ・ソロスも偉大な投資家だが、「（英ポンドの空売りで成功するなど）世界には何の貢献もしていない。バフェットは個別企業の買収でも実績を上げ、取締役報酬やデリバティブの膨張にも歯止めをかけてきた」（同著）とアックマン氏は語る。

新型コロナウイルスとの死闘に勝てば、バフェット氏のように尊敬を集められる日がようやくやって来るかもしれない。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。